

# 学校間連携

高校と高校の連携、高校と中学校、または小学校との連携。  
 幅広い学びを目的とした、さまざまなタイプの学校間連携事例を集めました。  
 共同の会社運営から出前授業まで、  
 いずれも地域の中で協力しあって人材を育てていこうという発想が原点。  
 生徒たちが学校の内外でイキイクと交流し学ぶ様子をご紹介します。

取材・文／永井ミカ

## 進路指導実践事例：01

# 専門高校3校が得意分野をもち寄って 合同の模擬株式会社を運営

新潟・県立 長岡商業高校  
 長岡農業高校  
 長岡工業高校

オリジナル商品の  
 企画から開発・販売まで

新潟県長岡市内にある3つの専門高校（県立長岡商業高校、県立長岡農業高校、県立長岡工業高校）が連携し、高校生を役員・社員とした模擬株式会社「長岡C.A.T.<sup>キャット</sup>」を運営している。社名のC.A.TはCommercial（商業）、Agricultural（農業）、Technical（工業）の頭文字をとったもの。行っているのは主にオリジナル商品の企画と開発・販売で、例えば農業高校は「ヤーコンジャム」「こめっころーる」といった食品を開発・製造、工業高校はキーホルダーなどの商品を製造したり、パッケージデザインなどを担当、商業高校は商品企画やPR、会計などを担当している。

始まりは2007年。それぞれの形で地域との連携を行ってきた3校の校長（当

ゆるやかな連携により  
 長く続けられる取り組みに

長岡C.A.T.の大きな特徴は、ゆるやか

時、地域を担う人材を育成しながら、もっと積極的に地域にPRできる取り組みができないかと話し合うなかから、3校連携の構想が生まれた。そして、①各学校で学んだ知識や技術を生かし、校外での販売実習などを通して実践的な学習を行う。②高校生が開発した商品や実習製品などを販売することにより地域の活性化を目指し、また、地域に貢献する能力を養う。③長岡市内の農業、工業、商業高校が互いに連携・協力しあい、地域をはじめ広く県民に専門高校の良さをPRする機会とする。この3つを目的に、08年、長岡C.A.T.が正式にスタートしたのである。

### School Data

**新潟・県立 長岡商業高校**  
 総合ビジネス科・情報ビジネス科／1910年創立  
 生徒数／671人(男子212人、女子459人)  
 進路状況(2011年度実績)／大学21.3%、短大5.5%、  
 専門学校45.5%、就職27.2%、その他0.5%  
 新潟県長岡市西片貝町1726  
 TEL 0258-35-1502  
 URL <http://www.nagaokas-h.nein.ed.jp/>

**新潟・県立 長岡農業高校**  
 食品科学科・農業経済科・生産技術科／1908年創立  
 生徒数／468人(男子186人、女子282人)  
 進路状況(2011年度実績)／大学5.9%、短大2.0%、  
 専門学校43.4%、就職48.7%、その他0%  
 新潟県長岡市曲新町3-13-1  
 TEL 0258-37-2266  
 URL <http://www.nagaokan-h.nein.ed.jp/>

**新潟・県立 長岡工業高校**  
 機械科・電子機械科・電気科・電子科・工業化学科・  
 テキスタイルデザイン工学科／1902年創立  
 生徒数／781人(男子659人、女子122人)  
 進路状況(2011年度実績)／大学20.1%、短大7.1%、  
 専門学校30.9%、就職41.6%、その他0.4%  
 新潟県長岡市幸町2-7-70  
 TEL 0258-35-1976  
 URL <http://www.nagaokak-h.nein.ed.jp/>

## 長岡CATのあゆみと実施内容

### 2007年度(設立の準備)

#### 2月・3月

- ・長岡農業、長岡工業、長岡商業の校長による長岡地区専門高校活性化会議の立ち上げ
- ・3校の校長と長岡工業の教頭で意見交換
- ・地域を担う生徒の育成と専門高校の活性化のため、連携した取り組みについて検討
- ・各高校長と各校の代表教職員が集まり、趣旨に沿った内容で検討開始

### 2008年度(1年目)

#### 5月～8月(以下についての検討)

- ・今年度の各種事業およびイベント
- ・合同ブランド名
- ・ロゴマーク
- ・イメージキャラクター
- ・制作費等の経費調達方法
- ・各校文化祭の相互参加における要望、生徒の交流方法

#### 10月～12月

- ☆「工業フェスタ」への参加
- ・今後の運営方法とブランド化、商品開発に向けて検討
- ・「長岡CAT」ロゴマークおよびイメージキャラクターの公募(3校の在籍生徒へ)
- ・商業高校企画、農業高校生産のヤーコンジャムの商品化
- ☆「長岡農業高校文化祭」への参加
- ☆「長商全国食King～」への参加(長岡農業高校生産のヤーコンジャムを販売)

#### 2月～3月

- ・ロゴマーク、イメージキャラクターの決定
- ・模擬株式会社設立、借入金、出資方法の決定(資本金は15万円※3校の教職員から募る)

### 2009年度(2年目)以降の主な取り組み

#### 年間5～6回の取締役・監査役会

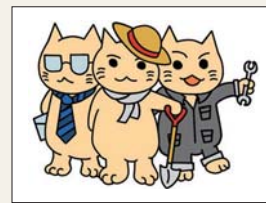
- ・役員決定 ・役員自己紹介 ・定款 ・年間活動計画
- ・参加イベント決定 ・イベント事前打ち合わせ
- ・決算報告 ・会計監査 ・株主総会の打ち合わせと準備など

#### 9月～12月

- ・商品企画のコンペティション(地元企業や団体などが参加)
- ☆「長岡商業高校文化祭」にて販売実習
- ☆「おっここ撰田屋市」にて販売実習
- ☆「長岡農業高校文化祭」にて販売実習
- ☆「長岡工業高校文化祭」にて販売実習
- ☆「長商全国食King～」
- ☆「長岡CATオリジナルショップ」

#### 2月～3月

- ・株主総会
- ・利益処分(災害復興などとして寄付)
- ・会社清算手続き(出資金の返還)



イメージキャラクター



な連携を大切にしているということだ。「まったく違うことを学んでいる3校ですから足並み揃えてというのは難しい。時間調整にかかる手間や教職員の負担をなるべく少なくし、それぞれの活動のなかからできる範囲で得意なことをもち寄って、無理なく長く続けられる取り組みを目指しています」と言うのは、長岡商業高校の内川洋校長先生。例えば、3校の参加の仕方さまざままで、商業高校は総合ビジネス科3年生が流通コースの授業の一環として参加、農業高校は生徒会が販売などを担当し、商品開発や製造では食品科学科製菓製パン専攻の生徒が課題研究として取り組んでいる。工業高校は同好会スタイルで有志を募ったところ今年度は27人が集まり、週1回放課後に活動をしている。そして、必ずしも3校の共同作業にこだわらず、長岡CATの活動とリンクさせながら、農業高校独自の商品を開発したり、工業高校開発の「シャボン玉製造機」をイベントで披露したりということも行っている。さらに、楽しく長く続けるため、資金は3校の教職員から募った出資金を柱とした運営だ。

こうした自由度の高い連携の中でも、自分たちの専門以外のことを体験的に学び、視野を広げるといふ効果は大きい。長岡農業高校の大橋忠義校長先生は「これまでも農業高校として生産から販売まで行ってきましたが、連携によって、市場調査やコンセプトづくり、パッケージングなど幅広い市場の流れを学ぶことが

できました。これが、地域に根ざしたビジネスの知識や能力、態度の育成につながっています」と言う。同じく、長岡工業高校の安達弘哉校長先生も「ものづくりを通してのチームワークの大切さはもちろんのこと、商品を販売することの難しさ、消費者ニーズを考えて商品を開発していくことの大切さなどが学んでいます」と言う。そして、視野が広がると同時に、自分たちの専門教科の学習の深化にもつながっている。

これまでの長岡CATは商業高校と農業高校、商業高校と工業高校というつながりが強かったが、今年度より、工業高校が作った型で農業高校がクッキーを作る、といったオリジナル連携商品の製造にも着手し、農業高校と工業高校のつながりも強化された。アイデア力、行動力、団結力は、年々高まっており、県教育委員会の「オンラインワンスクール・ステップアップ事業」の実施校にも指定されている。

また、3校が連携した取り組みということで、地域からの信頼度や認知度が高まるという効果もある。「地域イベントのオフアームもいただくようになり、さまざまな可能性を感じます」と長岡商業高校の内川校長先生。3校とも今後も連携を続けていきたいと考えて、それぞれ、校内体制の強化と専門性の深化(商業高校)3校の全生徒が関われるような活動(農業高校)、6学科すべてから多くの生徒が参加できる仕組みづくり(工業高校)といった課題を挙げている。

# 地元中学と連携した進路指導で 地域発展のための人材を育てる

— 大阪・府立 福井高校 —

## 中高連携の実践例

(2011年度の実践より抜粋※例年ほぼ同じ取り組みを実施)

中学校進路説明会 (保護者・生徒)	中学校5校で実施。他の高校とともに福井高校の説明・宣伝を行う。高校選び・高校卒業後の進路選びで大切にしたいことなど、大きな視点で進路を考えてもらうよう配慮。
中学校での進路講演会	中学校5校で実施。独自の取り組みとして偏差値だけで高校を選ぶことのデメリットを示すとともに、高校卒業後の将来やどんな大人になりたいかを意識する機会にもしてもらっている。近年は他の地域でも「進路と仲間」というテーマで講演を依頼されることがある。
中学校への出前授業	5中学校の3年生向けに、高校の教員が授業。
中学校の進路学活への生徒派遣	中学校5校で実施。「中学校が(福井を含む)いくつかの高校に進学した卒業生たちを招き、中学3年生に高校生活を紹介してもらい、高校受験へのアドバイスをもらう」という企画。
中学生の高校探検・見学 (校内見学と聞き取り)	中学校1校の「生徒があちこちの高校を分担して訪問し、後日発表しあう」取り組みに対応。
オープンスクール (夏と秋の2回開催)	公開授業・学校説明会・授業体験(エリア関連の授業)・部活動体験を実施。生徒も学校生活について説明する。
学校説明会 (12月・1月・2月に計4回実施)	中学生の受験校決定の時期にあわせた学校説明会。希望者には学校見学会も実施。
近隣地区の 高校合同説明会	市民会館で開催。例年、演劇部と若手教員とで活力ある学校の姿をアピール。ブースでの説明も実施。
福井高たよりの発行	内容は行事、クラブ活動、選択授業、卒業生の紹介など。オープンスクールや中学校訪問で配布・持参。それ以外の時期には市内の中学校に送り、地元8中学校ではクラス掲示も依頼している。
福井高カップ (7月～8月に開催)	例年、体育系のクラブは中学校のクラブを招き、福井高カップをめざす中学生の交流試合を運営。文科系では演劇部、ボランティア部が参加。毎年1000人を超える中学生が参加。
中学校訪問 (3月・6月・9月)	年度末に、新1年クラス編成に必要な情報について聞き取りを行う。人権保健部と新1年担任団を中心に、茨木市の全中学校と市外の一部中学校は訪問し、それ以外の中学校については電話で聞き取り。また、6月と9月の2回、全教職員で学区内の68校を訪問し、福井高校の教育内容の理解をひろげる活動をしている。
中高連絡会 (6～7月)	10中学校から旧3年の担任、高校側から1年の担任が出席し、新1年生たちの情報交換を行い、地元中学校との信頼関係づくりや課題をもつ生徒の指導に役立っている(地元以外の中学校については、サマーオープンスクール時に中高連絡会を実施)。
生徒に関わる情報交換	茨木進保協と連携し、高校中退の実態調査等にも協力しながら、茨木市内の中学校進路指導担当者との連絡を随時とりあっている。
福井高校を育てる会 (2カ月に1度)	地元8中学校の進路担当者との会議。福井高校の取り組みや入試についての情報提供、中学校の進路学活などの意見交換を行うとともに、福井高校への提言コメントもいただく。
豊川中学校区教育協議会 (豊川教育ネット、月1回)	「18歳時点で多様な進路選択ができる子どもを育てよう」を目的に、豊川中学と同校区の保育園・小学校・福井高校・大阪大学の志水ゼミが参加。約月1回のペースの事務局会議では、主催行事の準備や、各校・園の取り組みの交流、小中の生活実態調査の集計・分析などを行っている。
AIDSについての 出前授業	生徒組織「たんぼぼ」による実践。校内での発表のほか、中学校から依頼があれば出前授業を行う。小学校2校から打診があったため、小学校向けの授業を検討中。

### School Data

普通科総合選択制 / 1984年創立  
 生徒数 / 651人(男子280人、女子371人)  
 進路状況(2011年度実績) / 大学45.3%、短大6.7%、  
 専門学校32.6%、就職4.8%、その他10.6%  
 大阪府茨木市西福井3-33-11  
 TEL 072-641-4361  
 URL <http://www.osaka-c.ed.jp/fukui/>

### 自校の宣伝にとどまらず 中学生の進路観育成を目指す

設立当初より、地元8中学校と密な連携をとってきた大阪府立福井高校。当時、8中学校は、新設の福井高校が中学生が行きたいと思う魅力的な学校となるよう、「福井高校を育てる会」を結成し意見交換などを行ってきた。現在は「育てる会」の枠内にとどまらず、高校側からも積極的に働きかけ、学校説明会における教員や生徒の派遣、出前授業、合同イベントの開催などを行い、普通科総合選択制の魅力をアピールしている。

また、自校の宣伝にとどまることなく、「塾の先生にあてがわれた高校になんとか進学するのはやめよう。その高校のいい所に惚れて行こう」という進路観の大切さも中学生に向けて訴え続けている。

### 生徒も教師も 主体的に連携活動に臨む工夫

同校では、生徒も教師も中学校との連携を実際に体験する。生徒たちは中学校の進路学活に向き高校生活を語り、オープンスクールで行事やクラブなどについて説明する。また、出前授業を手伝ったり、スポーツを指導したりする。「こうした活動は、生徒たちだけで中学校と打ち合わせをしたり資料を作成するなど、主体的、能動的になるよう工夫しています。それが、自分を鍛え自分の力や適性を発見する場になるからです」と言うのは、地域連携担当の小川隆史先生。また、出前授業など教師にもなるべく多く連携の現場を経験してもらい、中学生の反応は教員全体で共有し、地域の人材を育てる一端を担っていることを意識してもらおうのだ

そうだ。さらに、行事・イベントに限らず、日常的に生徒について情報交換したり、学校の取り組みや進路に対する考え方を広報紙などで校外へPR。こうして同校は、「自己実現のための進路」を意識させようとする進路指導に取り組んでいる中学校の思いを引き継いでくれる高校」として、地域で評価されてきた。

取り組みが功を奏し進路意識の高い生徒が入学してくる。もちろんさまざまに生徒がいるが、意識の高い生徒の存在がほかの生徒にもいい影響を及ぼし、学校全体の前向きな雰囲気づくりにも役立つ。

「中学校に限らず地域とつながることで成長する生徒の姿をいくつも見てきました。今後もそれを着実に引き継ぎ広げていきたい。また、このことが地域の発展にもつながっていくような夢のある、仕掛けを作っていきたいです」(小川先生)

# 商業系ならではの特徴的な授業を 高校3年生が中学校で出前授業

— 大分・県立 三重総合高校 —



## School Data

普通科・生物環境科・メディア科学科・キャリアビジネス科／2006年創立  
生徒数／579人(男子262人、女子317人)  
進路状況(2011年度実績)／大学23.3%、短大6.3%、  
専門学校40.3%、就職29.6%、その他0.5%  
大分県豊後大野市三重町秋葉1010  
TEL 0974-22-5500 URL <http://kou.oita-ed.jp/miesogo/>

パソコンやクイズ形式など  
工夫を凝らした8講座

大分県立三重総合高校は、4校の統廃合により新たに誕生した創立7年目の学校。中学生に商業系の学科に関心をもってもらうための取り組みとして、昨年度から生徒による出前授業をスタートさせた。

昨年度は、同校への入学者がもっとも多い地元中学校の2年生を対象に、「模擬取引」「利息のはなし」「電子名人」「コンピュータの世界」「初めてのExcel」「商品の寿命を考える」「家族の絆」「コピーはダメ!」の8講座を実施。商業系学科の3年生が必修で取り組んでいる課題研究の中から、学科を知ってもらうのにわかりやすいものや特徴的なものを選び、各講座2人の生徒が担当した。中学生は事前に配られた資料を読み、希望の1講座を受ける。

「内容や講義スタイルなどは、高校の授業中に生徒たちが話し合っただけです。パソコンを使ったり模造紙を使ったりクイズ形式にしたりと、教え方もバラエティに富んでおり堂々とした授業ぶりで驚きました」と商業科主任の農木秀二先生。高校生にとっては学んだ成果を発表するいい機会にもなることから、いずれは商業以外の学科にも取り組みを広げていきたい考えだ。

# 外国語科生徒が小学校で授業を実施。 自らの英語力向上を目指す

— 大分・県立 別府羽室台高校 —



## School Data

普通科・外国語科／1983年創立  
生徒数／373人(男子162人、女子211人)  
進路状況(2011年度実績)／大学33%、短大15%、  
専門学校42%、就職10%  
大分県別府市野田565  
TEL 0977-66-5067 URL <http://kou.oita-ed.jp/beppuhumurodai/>

小学生との交流を通じて  
学び合いのよさを実感

外国語科を擁する大分県立別府羽室台高校は、文部科学省の「英語力を強化する指導改善の取組」事業を受け、県から拠点校に選ばれている。同事業の一環として今年度、地元2校の小学校への出前授業を実施。年に3回(1学期に1回)、1校につき7〜8人の生徒(2・3年生)が出向き、小学5年生を対象に英語に親しんでもらおうというものだ。同時に高校生が英語を実際に話す機会を増やし、英語力のさらなるアップを目指すという狙いもある。

生徒たちが考えた授業は、クイズや名刺交換、歌やジェスチャーなどの要素を取り入れたもの。年間を通して同じ生徒が授業を行うため、回を増すごとに交流は深まる。「最初は緊張していた生徒たちも、だんだん心を開き学び合いのよさを実感していました。小学生が楽しみにして待っていてくれることが、高校生の自信にもつながったと思います」と、国際教育主任の鶴原誠二先生は言う。

また、やはり同事業の一環で、中学校でも英検指導を実施(生徒は教員をサポートする立場で参加)。外国人観光客の多い地域として、地域全体の英語力を上げる取り組みに積極参加している。